平成 28 年度（2016 年度）

金沢大学大学院法務研究科

入学試験問題

刑　　法

A 日程入試

（注意）
１．問題冊子（表紙を含む）は２枚です。
２．問題冊子は指示があるまで開かないで下さい。
３．問題冊子と下書き用紙は持ち帰って下さい。
４．解答は、鉛筆、シャープペンシル、ペン、ボールペンのいずれで記入しても構いません。

平成 28 年度（2016 年度）金沢大学大学院法務研究科入学試験問題

試験科目	刑　　法

問題　判例の立場を説明した上で、以下の設例におけるＸの罪責を論じなさい（特別法違反の点を除く）。

Ｘは、住居侵入・強盗を共犯者らとの間で計画し、被害者Ａ方の明かりが消えたら、共犯者２名が屋内に侵入し、内部から入口の鍵を開けて侵入口を確保した上で、Ｘを含む他の共犯者らも屋内に侵入して強盗に及ぶ旨の共謀を遂げた。

翌日、前記共謀を実行に移すことになり、共犯者Ｐ１がＡ方の窓から侵入して侵入口を確保した。しかし、見張り役の共犯者Ｐ２が、現場付近に人が集まってきたのを見て犯行の発覚を恐れ、屋内に侵入したものの未だ強盗の実行に着手していなかったＰ１に電話をかけ、「人が集まっている。早くやめて出てきた方がいい。」と言ったところ、「もう少し待って。」などと言われたので、「危ないから待てない。先に帰る。」と一方的に伝えて電話を切り、付近に止めてあった自動車に乗り込んだ。車内では、Ｘが強盗の実行行為に及ぶべく待機していたが、ＸおよびＰ２は話し合って一緒に逃げることにし、Ｘが運転する自動車で現場付近から立ち去った。

Ｐ１は、Ｘらが立ち去ったことを知ったが、現場付近に残っていたＰ３と共にそのまま強盗を実行し、その際に加えた暴行によりＡを負傷させた。